

情報検索から自律型オーケストレーションへの進化: Perplexityのアーキテクチャ転換と2027年に向けた戦略的展望

Gemini 3.1 pro

1. 新たなコンピューティング・パラダイムの幕開けと市場の変容

2026年、人工知能の役割は「人間の質問に答える受動的なチャットインターフェース」から、「自律的にワークフロー全体を完遂する能動的なデジタル労働者」へと根本的な変容を遂げた。このパラダイムシフトの最前線に位置し、業界の定義そのものを書き換えようとしているのが、次世代検索エンジン市場で急速にシェアを拡大してきたPerplexityである。同社は2026年2月末から3月にかけて開催された初の開発者会議「Ask 2026」において、「Perplexity Computer」および「Personal Computer」という全く新しい概念の製品群を連続して発表した¹。

これらの発表は、単なる新機能の追加にとどまらない。Perplexityが従来の「情報検索サービス(アンサーエンジン)」という枠組みを完全に脱却し、ユーザーのデバイスやビジネスアプリケーションと深く統合された「AIオペレーティングシステム(AI OS)」へと進化しようとする明確な意思表示である。CEOのAravind Srinivas氏がカンファレンスで述べた「従来のオペレーティングシステムは指示(Instructions)を受け取るが、AIオペレーティングシステムは目的(Objectives)を受け取る」という言葉は、この転換の本質を突いている³。ユーザーが「何をすべきか」を一つ一つ指示する時代は終わり、ユーザーが「期待する成果」を定義するだけで、システムが背後で複雑なタスクを分解し、実行する時代が到来したのである¹。

本レポートでは、Perplexityの最新の技術的アーキテクチャ、ビジネスモデルの変遷、エンタープライズ市場への浸透戦略、そしてエコシステム全体の動向を徹底的に解析する。さらに、これらの動向が2026年から2027年に向けたAI業界全体にどのような波及効果をもたらすのか、その中長期的な軌跡を予測する。

2. Perplexity Computer: 19のフロンティアモデルを統轄する「指揮者」のアーキテクチャ

Perplexityが発表した「Perplexity Computer」の最大の技術的特異点は、単一の巨大な汎用言語モデル(LLM)に依存するのではなく、設計段階から19の最先端AIモデルをタスクに応じて動的に切り替え、統合・調整する「マルチモデル・オーケストレーション」を採用している点にある¹。

2.1. 専門化するAIモデルとオーケストレーションの必然性

AI業界における従来の通説は、大規模言語モデルは次第にコモディティ化し、単一の汎用モデルがあらゆるタスクをこなすようになるというものであった。しかし、Perplexityの市場分析とシステム設計の思想はこれと真逆を行く。AIモデルは進化するにつれて「専門化(Specialization)」の道を歩んでおり、それぞれのフロンティアモデルが得意とする領域は明確に分かれ始めている¹。

Srinivas氏がスティーブ・ジョブズの「音楽家は楽器を弾き、私はオーケストラを指揮する」という言葉を引用して説明したように¹、Perplexity Computerは自らを指揮者(オーケストレーター)として位置づけている。このシステム構造は、放射状のネットワークレイアウト(Center-out radial network)として視覚化できる。中央に配置された推論モデルが「中核となる指揮者(Core Orchestrator)」として機能し、その周囲を取り囲むように配置された各専門ノード(モデル)に対して、データストリームを通じてタスクを動的かつ非同期的に委譲する構造である。

このオーケストレーションにおいて、現在確認されている主なモデルの役割分担は以下の通りである¹。

担当モデル名称	オーケストレーションにおける主要な役割と機能
Claude Opus 4.6	システム全体の中核となる推論エンジン。ユーザーの目的をタスクに分解し、最適なモデルへの割り当て(指揮)を担う。高度な推論と全体制御を行う ¹ 。
Gemini 3.1 Pro	広範かつ深い情報収集を行うディープリサーチと、自律的に動くサブエージェントの生成を担当する。マルチモーダルな理解にも優れる ¹ 。
GPT-5.2 / GPT-5.4	長文コンテキストの深い理解、広範な検索、および論理的な推論タスクを担う。ハルシネーションの発生率が低く抑えられている ¹ 。
GPT-5.3-Codex	プロダクション品質のコード作成、ブラウザ開発ツールを使用したバグ修正、GitHubへのプッシュなど、複雑なコーディングタスクに特化した実行を行う ¹¹ 。
Grok	スピードが極めて重視される軽量なタスクを高速で処理する。リアルタイムデータの処理に強みを持つ ¹ 。

Nano Banana	ワークフロー内で要求される高解像度の画像生成や視覚的コンテンツの作成を担うクリエイティブモデル ¹ 。
Veo 3.1	ビデオクリップの生成や映像編集など、動画領域のサブタスクを処理する ¹ 。

このアーキテクチャの最大の利点は「モデル・アグノスティック(特定のモデルに依存しない)」であることだ。AI開発競争が激化し、数ヶ月単位で各社のモデル性能の優位性が入れ替わる現状において、Perplexityは常に「その時点で最高のモデル」をバックエンドのツールとして組み込むことができる¹。これは、自社のファウンデーションモデルの性能向上のみに依存しなければならない単一のモデル開発企業(OpenAIやGoogleなど)には構造的に模倣が難しい、プラットフォームとしての決定的な戦略的優位性である。

2.2. Model Councilによる推論の民主化とハルシネーションの劇的削減

この高度なオーケストレーション戦略の中でも、特にエンタープライズ用途で注目すべき機能が「Model Council(モデル・カウンシル)」である。これは、特定の高度なクエリに対して、GPT-5.4、Claude Opus 4.6、Gemini 3.1 Proという3つのトップティアモデルを同時に並列実行し、その結果を合成する機能である¹¹。

いかに優れたフロンティアモデルであっても、単一のモデルは特定のコンテキストを見落とししたり、学習データに起因する偏った視点を持ったり、あるいはもっともらしい嘘(ハルシネーション)を生成するリスクを常に内包している¹⁴。Model Councilは、これら3つのモデルの回答を比較し、「どこで意見が完全に一致し、どこで解釈が分かれているか」、そして「各モデルが独自にどのような洞察を提供しているか」を自動的に分析してユーザーに提示する¹¹。ある主要なリサーチ(Vellum, 2026年)によれば、この並列合成アプローチにより、事実誤認やコンパクションエラー(情報の圧縮過程での欠落)が、単一のフロンティアモデルを使用した場合と比較して約40%も削減されることが実証されている¹⁵。

この機能は、M&Aのデューデリジェンス、高リスクな投資判断(例えば特定の株式の強気・弱気ケースの分析)、あるいは複雑な事業計画のストレステストなど、絶対にミスや偏向が許されない領域において決定的な強みとなる¹¹。ユーザーはもはや「どのAIの出力が正しいか」を自ら検証するために複数のタブを開く必要はなく、Perplexityの単一インターフェース上で、最高峰のAI同士による意見のすり合わせ(コンセンサスビルディング)までを自動化できるのである¹⁴。

2.3. Custom Skillsによるパーソナライゼーションと永続的記憶

Perplexity Computerの自律性をさらに高めているのが「Custom Skills(カスタム・スキル)」と永続メモリーの統合である。システムは、ファイルシステム、CLIツール、リアルタイムのブラウザアクセスを備えた隔離された安全なコンピューティング環境(サンドボックス)で各タスクを実行する¹。

Skills機能は、ユーザーが特定のタスクの処理方法(ステップバイステップの指示、好みの出力フォーマット、特定のワークフローの順序など)を一度教えるだけで、システムがそれを永続的に記憶し、再

利用可能にするメカニズムである¹¹。例えば、「毎週のKPIをテーブルにまとめ、主要な成果を箇条書きにし、3文で見通しを述べるSlack向けの週次レポート作成」や、「専門用語を避け、エンゲージメントを高める質問で締めくくる個人のトーンを反映したLinkedIn投稿」などをスキルとして保存できる¹¹。関連するタスクが発生した場合、Computerはユーザーが再説明することなく、これらのスキルを自動的に呼び出して適用する¹¹。これにより、Perplexity Computerは単なる汎用ツールから、個々のユーザーや企業の文脈を完全に理解した「専用のデジタルワーカー」へと昇華される。

3. Personal ComputerとMac mini: ローカル・ハイブリッド戦略とセキュリティの再構築

クラウド上で稼働する「Perplexity Computer」を、ユーザーの物理的なローカル環境に直接接続するハブとして「Ask 2026」で大々的に発表されたのが「Personal Computer」である²。このソフトウェアは、ユーザーが所有するMac mini上で24時間365日継続して稼働し、クラウド上のPerplexityの強力な推論サーバーと、ユーザーのローカルファイル、OS、ビジネスアプリケーションをシームレスに結合する²。

3.1. 破壊的トレンド「OpenClaw」のセキュリティ危機とPerplexityのカウンター戦略

なぜPerplexityは、クラウド内で完結する洗練されたサービスアーキテクチャを持ちながら、わざわざMac miniというローカルのハードウェアに依存するハイブリッド型のシステムを構築したのか。この戦略的判断の背景には、2026年初頭にシリコンバレーをはじめとする世界の開発者コミュニティを席卷したオープンソースのAIエージェント「OpenClaw」の存在と、それが引き起こした壊滅的なセキュリティ危機がある²。

OpenClawは、ユーザーのローカルマシン上で直接AIを実行し、ターミナルにフルアクセスしてタスクを自動化する画期的なオープンソースツールとして爆発的な人気を博した²¹。WhatsAppやTelegramなどの使い慣れたメッセージングアプリから指示を出すだけで、ローカルのメールボックスの整理やカレンダーの管理、ファイルの操作を自律的に行うこのツールは、AIエージェントの利便性を広く世に知らしめた²³。

しかし、その利便性の裏には致命的な脆弱性が潜んでいた。「アクセス権(ファイルやコードの実行権限)」「信頼できない入力(ウェブやメールからの外部データの取り込み)」「外部への持ち出し(APIを介したデータ送信)」というAIエージェントにおける「致命的な三要素(Lethal Trifecta)」に、「永続性(常にバックグラウンドで稼働し続ける特性)」という第4の次元が加わったことで、最悪のセキュリティインシデントが引き起こされたのである²²。

2026年1月末に発生した「ClawHavoc」と呼ばれるサプライチェーン攻撃や、WebSocketのハイジャックを許す脆弱性(CVE-2026-25253)により、事態は深刻化した²⁵。単純な悪意あるメッセージをAIが読み込んだだけでプロンプトインジェクションが発生し、公開状態にあった21,000台以上のOpenClawインスタンスからAPIキーやOAuthトークン、プライベートなチャット履歴が流出した²⁵。さらに悪質なケースでは、暗号資産ウォレットの情報を窃取するマルウェア(Atomic macOS Stealer)が

システムレベルの権限でインストールされる事態となった²⁵。

Perplexityの「Personal Computer」は、まさにこのOpenClawが証明した「ローカル実行によるファイル・アプリへの直接アクセス」という巨大な需要を吸収しつつ、その「壊滅的なセキュリティリスク」を企業レベルの堅牢性で解決するための戦略的カウンタープロダクトである¹⁷。推論の重い処理やモデルのオーケストレーションは安全なPerplexityのクラウドサーバー側(サンドボックス環境)で行い、Mac mini上のエージェントはローカル環境における「安全なプロキシ(代理人)」としてのみ機能する設計となっている¹⁸。

比較次元	Perplexity Computer / Personal Computer	OpenClaw / ローカルオープンソースエージェント
実行環境とアーキテクチャ	クラウド上のサンドボックスとローカル(Mac mini)の安全なプロキシのハイブリッド構成 ²⁷ 。	ユーザーのハードウェア上でローカル実行。OSシステムへのフルアクセスを持つ ²⁷ 。
モデルのオーケストレーション	19のフロンティアモデルを中央のOpus 4.6が統轄・最適化して割り当て ²⁷ 。	モデルアグノスティックだが、基本はAPI経由でユーザーが単一モデルをプラグインして使用 ²⁷ 。
セキュリティ障害の範囲	クラウド側はタスク終了後に破棄される一時的なサンドボックス。ローカル操作は厳格に制御 ²⁷ 。	ローカルファイル、OSのルート権限、ネットワーク全体に致命的な影響を及ぼす可能性 ²² 。
プロンプトインジェクションリスク	サンドボックスの隔離とサブタスクの委譲・分散によりリスクを大幅に軽減 ²⁷ 。	極めて高い。エージェントがライブのウェブやメールを直接読み込み、そのまま実行権限を持つため ²² 。
監査と統制機能	完全な監査証跡(Audit trail)、機密操作前のユーザー承認、即時停止用のキルスイッチを標準装備 ³ 。	ユーザー管理に依存(誤設定が多い)。自律的な動作の事後追跡が困難 ²⁶ 。

機密性の高いアクション(ファイルの削除や外部へのデータ送信など)の実行前には必ずユーザーに承認を求め、すべてのセッションに完全な監査証跡を残し、異常を検知した際に即座にプロセスを強制終了できる「キルスイッチ」を物理的・論理的に備えている³。これは、無秩序に拡大したオープンソース・エージェントに対する、「管理・統制された商用エージェント」の明確な勝利宣言であり、企業

や一般ユーザーが安心してAIにシステムへのアクセス権を委ねるための必須条件を満たしている。

3.2. ハードウェアとしてのMac miniの戦略的合理性

PerplexityがPersonal Computerの初期の動作環境として当面Mac専用とし、特にMac miniを推奨デバイスとしているのには、技術的および運用上の明確な理由が存在する¹⁷。

第一に、このエージェントの最大の特徴は、ユーザーがコンピュータの前になくともバックグラウンドで動き続ける「常時稼働(Always-on)」のハブであるという点だ¹⁷。Mac miniは、そのコンパクトな筐体とApple Silicon(M4チップなど)による圧倒的な電力効率から、「予備のMac(spare Mac)」として24時間365日稼働させておくのに最適なデバイスである¹⁷。モニターを接続せずにネットワーク上に配置する「ヘッドレス・サーバー」としての運用に極めて適しており、ユーザーは外出先からスマートフォンや別のPCを通じて、自宅やオフィスのMac mini上で稼働するPerplexityエージェントに指示を出すことができる³。

第二に、システムへの直接アクセス権の確保である。モバイルOS(iOSやAndroid)はバックグラウンドタスクに対する制限(タスクキル)が厳しく、自律的なエージェントを長期間稼働させるのには向いていない。一方、MacのデスクトップOS上で稼働することで、ユーザーのローカルフォルダ内の画像の一括リサイズ、ファイルの整理、システム設定の変更、さらには他のインストール済みアプリケーションの操作など、制限のない自動化が可能になる²⁹。Perplexityは自ら専用のハードウェアデバイス(過去に失敗した様々なAIピンやバッジのようなもの)を製造する製造・在庫リスクを避けつつ、Appleの既存の強力で安定したハードウェアエコシステムを「自社AIのためのパーソナル・エッジサーバー」として見事に借用(ハイジャック)することに成功しているのである³。

3.3. ビジネスモデルの転換:「SaaS」から「労働力(Labor-as-a-Service)」へ

Personal Computerの機能は、現時点では月額200ドル(約3万円、または年間2000ドル)という、コンシューマー向けツールとしては破格の最上位プラン「Perplexity Max」サブスクリイパーに限定して提供されている(10,000月間コンピューティングクレジットを含む)³。従来の月額20ドルであった「Pro」プランの10倍という強気な価格設定であるが、これはPerplexityのビジネスモデルが根本的な転換点を迎えたことを如実に示している²⁸。

従来のソフトウェア・アズ・ア・サービス(SaaS)モデルは、あくまで「人間のユーザー自身の作業を効率化するためのツール」を提供するものであった。しかし、Personal Computerは「ユーザーの作業そのものを代行する労働力」である。月額200ドルで、24時間眠らずに指示を待ち、数十のツールを横断して競合他社のリサーチ、提携提案書のドラフト作成、財務モデルの構築、データの整理を自律的に行う「デジタルアシスタント(あるいはチーフ・オブ・スタッフ)」を一人雇えると仮定すれば、特にフリーランスのプロフェッショナル、スタートアップの創業者、あるいは多忙なエグゼクティブにとっては、決して非現実的な金額ではない¹。

Perplexityは、従来のSaaS市場の予算を取り合うのではなく、企業のアウトソーシング予算、BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)市場、あるいは派遣社員に割かれていた人件費市場の巨大なパイを直接奪いに行っていると解釈できる²⁸。この「AIをツールとしてではなく、労働力として価格設定する(Labor-as-a-Service)」アプローチは、今後のAI産業全体のプライシングの試金石となるだろう。

う。

4. エンタープライズ市場への本格侵攻: Cometブラウザと圧倒的ROIの証明

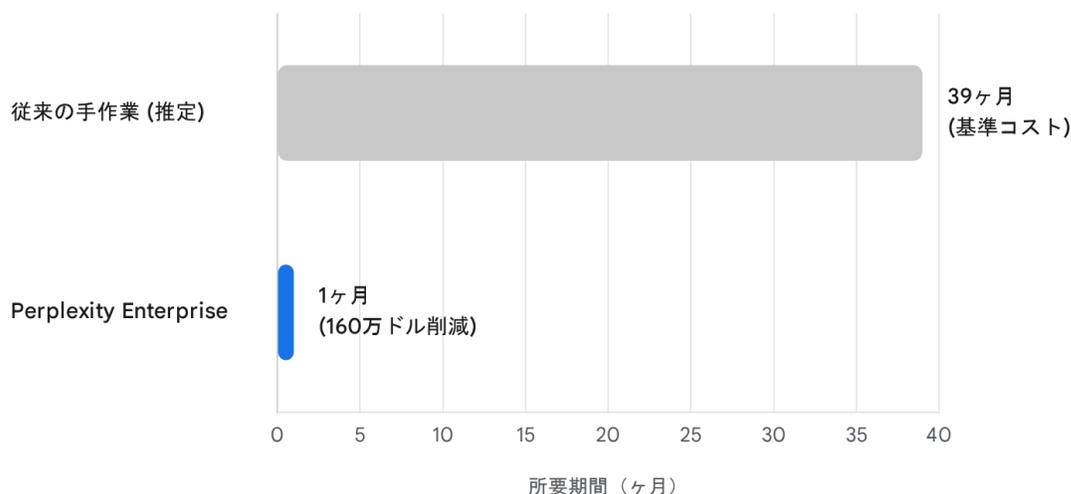
個人向け (B2C/Prosumer) の革新と並行して、Perplexityはエンタープライズ (B2B) 市場への浸透もかつてないスピードで進めている。「Ask 2026」カンファレンスで大々的に発表された「Comet Enterprise」ブラウザと「Computer for Enterprise」は、大企業のナレッジワークの根幹を揺るがすポテンシャルを秘めている¹²。

4.1. 圧倒的な投資対効果 (ROI) : 4週間で3.25年分の業務を消化

Perplexityが公表したエンタープライズ向けシステムの実証データは、労働集約的なホワイトカラー業務の在り方が根本から変わることを示唆している。Computer for Enterpriseは、Snowflake、Salesforce、HubSpotといった主要なビジネスプラットフォームにネイティブな「アプリケーションコネクタ」を介して直接接続し、社内の構造化データと外部のウェブデータを同時に分析する能力を持つ³¹。

McKinsey (マッキンゼー)、Harvard (ハーバード大学)、MIT、およびBoston Consulting Group (BCG) といった一流組織がナレッジワーカーの生産性測定に使用している厳格な機関ベンチマークを用いた内部パフォーマンステストにおいて、Computer for Enterpriseは驚異的な結果を叩き出した³¹。16,000件以上の複雑なクエリ処理において、システムは**「4週間で3.25年分 (39ヶ月分) に相当する業務量」**を完遂し、労働コスト換算で推定160万ドル (約2億4000万円相当) の節約効果をもたらしたのである³¹。

Perplexity Enterpriseによる劇的な業務圧縮効果



McKinseyやBCGのベンチマークに基づく16,000件のクエリ処理タスクにおいて、通常39ヶ月（3.25年）を要する業務がわずか1ヶ月（4週間）で完遂され、160万ドル相当の労働コスト削減が実証された。

Data sources: [PYMNTS](#)

例えば、財務アナリストがSnowflakeから最新の収益データを抽出し、それをPerplexityがリアルタイムで収集した市場分析ニュースと組み合わせてエクセルモデルを構築する作業や、営業チームがCRMから顧客データを引き出しつつ、競合他社の動向をウェブから収集して比較レポートを作成するといった作業がある³¹。従来は人間が複数のアプリケーション間を行き来し、コピー＆ペーストを繰り返して数日かけて行っていたこれらのタスクが、Computer for Enterpriseを用いれば単一のプロンプトから数分以内で処理されるのである³¹。

Harvard Business SchoolとBCGの共同研究が示すように、AIの導入はジュニア層のコンサルタントのパフォーマンスを43%引き上げ、すでに能力の高いシニア層であっても17%のさらなる向上をもたらす⁴⁰。Perplexityのマルチモデル・オーケストレーションは、これを単なる「テキストの生成」から「業務プロセスの自律的な完遂」へとさらに一段階進化させており、企業のホワイトカラーの生産性指標を根本から書き換える力を持っている。

4.2. Comet Enterprise: エージェント的ブラウジング (Agentic Browsing) の実現

エンタープライズ戦略のもう一つの柱が、Perplexityが独自開発したChromiumベースのAIネイティブブラウザ「Comet Enterprise」である³⁹。特筆すべきは、Cometに統合された「Agentic Browsing

(エージェント的ブラウジング)」と呼ばれる機能である³⁹。

従来のウェブブラウザが「ユーザーが自ら情報を探すための窓」であったのに対し、Cometは「ユーザーの指示に従ってAIエージェント(Comet Agent)が自律的にウェブを操作する実行環境(デジタル実行者)」へと進化している³⁹。ユーザーが音声やテキストで「カレンダーの空きに合わせて来週のロンドン行きの最適なフライトを見つけて予約して」と指示するだけで、Comet Agentがバックグラウンドで航空会社のサイトを開き、日程を入力し、価格を比較し、決済フォームの入力までを自律的に進行させる³⁹。

これを企業環境で大規模かつ安全にスケールさせるため、Comet Enterpriseは既存のMDM(モバイルデバイス管理)ソリューションを用いたサイレントインストールや、500以上のChromiumベースのブラウザポリシー制御に対応している³⁹。IT管理者は、中央のダッシュボードから組織全体のCometの展開状況を管理し、AIがアクセスできるウェブサイトの制限や、アクション実行時の承認フローを細かく制御できる³⁹。

4.3. CrowdStrikeとの戦略的提携: Agentic Blabbering 脅威の封じ込め

AIエージェントが企業の内部データやブラウザ上のセッション情報に直接アクセスして自律的に操作を行うことは、同時にかつてない重大なデータ漏洩やサイバー攻撃のリスクを伴う。実際、エージェント型ブラウザ特有の脆弱性として「Agentic Blabbering(エージェントの無駄話)」を利用した攻撃がセキュリティ研究者(Guardio等)によって指摘されている⁴⁴。これは、AIエージェントがウェブページを操作する際、自身の思考プロセスや判断基準(何を疑わしいと感じ、次に何をするつもりか)をバックグラウンドのログやプロンプトに出力してしまう性質を逆手に取る手法である⁴⁴。攻撃者はGenerative Adversarial Network (GAN) を用いてこの思考プロセスを傍受・解析し、AIエージェントのガードレールを巧みに回避する高度なフィッシングサイトや詐欺トラップ(VibeScammingやScamlexityなど)を動的に生成し、わずか数分でAIを騙して不正なアクションを実行させることが可能であることが実証されている⁴⁴。

このエンタープライズ特有の深刻な懸念を払拭するため、Perplexityはサイバーセキュリティの巨人であるCrowdStrikeと戦略的提携を結んだ⁴²。この統合により、CrowdStrikeの業界標準である「Falcon」プラットフォームが、Comet Enterpriseブラウザのランタイムレベル(実行環境)に直接組み込まれる⁴²。

AIエージェントが自律的にウェブを操作する際、Falconプラットフォームはリアルタイムでその挙動を監視する⁴²。エージェントがフィッシングサイトに誘導されていないか、あるいは企業内の機密データ(ソースコードや非公開の財務データなど)をプロンプトのコンテキストに含めて外部の未承認APIに送信しようとしていないかを検知し、統合されたポリシーに基づいて即座にブロックすることが可能になる⁴²。SOC 2 Type II 認証やGDPR準拠、ユーザーデータの学習利用禁止といった基本要件に加え³⁹、このエンドポイント保護レベルでの厳格なデータ移動制御が実装されたことで、Fortune 500クラスの大企業や金融機関でも、Perplexityの自律型エージェントを導入するセキュリティ上のハードルが大きく下がったと言える。

5. エコシステムの標準化とAgent2Agent (A2A) プロトコルの覇権争い

エンタープライズ環境においてAIエージェントの導入が進むにつれ、新たな構造的課題が浮上している。それが「エージェントのサイロ化 (Agent Silos)」である⁴⁶。例えば、人事部が導入したエージェントと、法務部が構築した契約書レビュー用エージェントが、それぞれ異なるベンダーのプラットフォームやフレームワーク (LangGraph、CrewAIなど) で構築されていた場合、両者がセキュアにコンテキストを共有し、タスクをシームレスに引き継ぐことは極めて困難であった⁴⁶。

このサイロ化を打破し、来るべき「Agent Economy (エージェント経済圏)」におけるインフラストラクチャの覇権を握るための規格争いが、2025年後半から2026年にかけて激化している。その中心にあるのが、Googleによって開発され、非営利団体であるLinux Foundationに寄贈されたオープンプロトコル「Agent2Agent (A2A)」プロジェクトである⁴⁸。

5.1. A2Aプロトコル: AIエージェントのための「HTTP/WebRTC」

A2Aプロトコルは、構築されたフレームワークや稼働するプラットフォーム、提供するベンダーの違いを一切問わず、独立したAIエージェント同士が自律的に互いの能力 (Capabilities) を発見し、ネゴシエーションを行い、セキュアに情報を交換して協調作業を行うための「共通言語 (プロトコル)」である⁴⁸。

Anthropicが主導し急速に普及したMCP (Model Context Protocol) が、主に「AIモデルとローカルのツールやデータソース間の接続」に焦点を当てた静的なカタログベースのプロトコルであるのに対し、A2Aプロトコル (特にv0.9以降) は「エージェントとエージェントのピア・ツー・ピア (P2P) の動的な対話と連携」に特化している点が決定的に異なる⁴⁶。業界関係者がこれを「AIエージェントにとってのWebRTCやHTTP」と表現するように⁴⁷、A2Aはエージェント同士を直接結びつける強固なトランスポート層として機能する。

比較項目	Agent2Agent (A2A) プロトコル	Model Context Protocol (MCP)
主要な焦点	エージェント間のピア・ツー・ピア (P2P) 通信、能力の動的ネゴシエーション、協調作業 ⁵⁰ 。	AIモデルとツール (ローカルファイル、DB等) を接続するコンテキストサーバーの役割 ⁵¹ 。
トランスポート層	WebSocket + オプションでQUICを利用。低遅延なリアルタイム通信に適する ⁵¹ 。	HTTP/2 + gRPC。安定したデータ取得に適する ⁵¹ 。

ディスカバリー(発見)	動的な能力の発見(Dynamic Discovery)。稼働中のエージェント同士が互いを見つける ⁵¹ 。	静的なカタログ(Static Catalog)に基づくツール一覧の提供 ⁵¹ 。
主導・支援企業	Google発祥。Linux Foundation管理。AWS、Cisco、Microsoft等が参画 ⁴⁸ 。	Anthropic主導。オープンソースとして広く普及 ⁴⁶ 。

Linux Foundationの傘下において、A2AプロジェクトにはAmazon Web Services (AWS)、Cisco、Microsoft、Salesforce、SAPといった名だたる巨大IT・クラウド企業がこぞって参画し、エコシステムの構築を推進している⁴⁸。また、エージェント間のセキュリティと可観測性を担保するプロキシレイヤーとして「agentgateway」プロジェクトも立ち上がるなど⁵²、周辺技術の整備も急速に進んでいる。

5.2. Perplexityのオーケストレーションと標準化戦略

Perplexityもまた、このA2Aプロトコルの標準化の波に深く関与し、自社のシステムに統合する動きを見せている⁴⁹。Perplexity Computerはすでに内部で19の異なるモデル(事実上のサブエージェント)間での高度なオーケストレーションを実現しているが⁸、A2Aプロトコルに完全対応することで、その指揮権はPerplexityの自社インフラの枠組みを越えることになる。

これにより、ユーザー企業の社内ネットワークで稼働する独自のRAG(検索拡張生成)システムや、他社が提供する金融特化型エージェント、サプライチェーン管理エージェントなどと、Perplexity ComputerがA2Aプロトコルを介してシームレスにタスクを委譲し合い、結果を統合することが可能になる⁴⁶。

Perplexityが自らを単なる検索エンジンではなく、「AIオペレーティングシステム(コンピューター)」と呼ぶ真の狙いがここにある。無数に乱立する多種多様なサードパーティ製AIエージェント群に対し、A2Aプロトコルを通じたインターフェースを提供することで、それらすべてを自らのオーケストレーションの指揮下に置き、ユーザーとAIが交差する全トラフィックとデータフローの中心(ハブ)に座ることである。

6. 財務的急成長とインフラストラクチャ・パートナーシップ

Perplexityが描く壮大な技術的野心とプラットフォーム戦略は、同社の極めて強固な財務基盤と、インフラストラクチャ企業との戦略的な提携によって支えられている。2024年初頭には約5億ドル(約750億円)と評価されていた同社の企業価値は、わずか18ヶ月後の2025年末から2026年初頭にかけて驚異的なスピードで上昇し、約200億ドル(約3兆円)というデカコーン企業の水準に到達した⁵³。

6.1. サブスクリプション主導の爆発的な収益成長

Googleをはじめとする従来の検索エンジンや、多くの新興AI企業が無料プランと広告モデルのハイブリッドに依存して収益化を模索する中、Perplexityは当初から広告モデルへの依存を意図的に避

けてきた(2024年の広告収入は全体の収益に対してわずか約2万ドル程度に過ぎなかった)⁵³。代わりに、月額20ドルの「Pro」プラン、そして新たに投入された月額200ドルの「Max」プラン、さらにはエンタープライズ向けのSaaS型シート課金という、ユーザーからの直接課金に基づく明確なサブスクリプション戦略を貫いている³⁵。

この戦略は見事に功を奏した。月間アクティブユーザー数(MAU)は4500万人に達し、2025年末時点での年間経常収益(ARR)は8000万ドル(約120億円)を突破⁵⁶。ARRの前年比成長率は800%という、SaaS業界の歴史においても稀に見る爆発的なスケールアップを記録している⁵³。

CEOのAravind Srinivas氏は「プラットフォームに広告を表示してユーザーの気を散らすのではなく、提供する価値とコンピューティングリソースの使用量に基づいた価格設定(Usage-based pricing)こそが、AIプロダクトにとっての正しいビジネスモデルである」と断言している⁶。情報検索とタスク実行における「完全な中立性と信頼性」を維持することこそが、長期的にはエンタープライズ顧客からの信頼を勝ち取り、LTV(顧客生涯価値)を最大化するという確信に基づいている。

6.2. エッジからクラウドまでを網羅するインフラストラクチャ連携

「常に複数の最高のモデルを並行稼働させ、最適な速度で結果を返す」というオーケストレーターとしての宿命を果たすため、PerplexityはGPUクラウドプロバイダーの「CoreWeave」と複数年にわたる戦略的パートナーシップを締結した⁵⁹。

NVIDIAの最新鋭アーキテクチャであるGB200 NVL72システムを搭載したCoreWeaveの専用クラスターを利用することで、Perplexityは自社の「Sonar」モデル(Llama 3.1 70Bベース)や、膨大なトラフィックを処理する「Search API」の推論ワークロードを、極めて低いレイテンシかつ予測可能なコストで処理できるようになった¹⁰。Perplexityの代名詞とも言える「圧倒的な回答スピード」と、Model Councilのように3つの巨大モデルを同時に稼働させる計算集約的な処理を両立させるためには、自前のデータセンターの制約に縛られず、最先端のコンピュータリソースを即座に調達・スケールアップできるCoreWeaveとの深い提携が不可欠であった⁵⁹。

さらに、テキストだけでなく視覚情報のクオリティとコンプライアンスを高めるため、世界最大級のデジタルコンテンツプロバイダーであるGetty Imagesとの間で複数年にわたるライセンス契約も締結している⁶⁰。これにより、Perplexityはハルシネーションのない正確なテキスト回答を提供するだけでなく、Getty ImagesのAPIを通じて、著作権が完全にクリアされた高品質な画像コンテンツを、的確なクレジットとソースリンク付きでユーザーに提供することが可能となった⁶⁰。クリーンで安全なAI体験を法的に求めるエンタープライズ顧客の需要に対し、インフラとコンテンツの両面から隙のない体制を構築している。

7. 2026年～2027年の未来予測: アンビエントAIの台頭と市場の淘汰

Perplexityの現在の技術的軌跡と、マクロな業界トレンドの分析から、2026年後半から2027年にかけての同社、および自律型AIエージェント市場全体の動向について、いくつかの確度の高い予測が

導き出される。

7.1. モバイルとウェアラブルへの統合によるアンビエント(環境)AIの実現

Perplexityは「Personal Computer」によってデスクトップ環境(Mac mini)という強力なローカル拠点を確保した一方で、モバイルデバイスや次世代ウェアラブルへの統合も水面下で急速に進めている。その最大の布石が、サムスンの次期主カスマートフォン「Galaxy S26」シリーズへのPerplexity AIエージェントのネイティブ統合である⁶¹。

2026年2月末の「Galaxy Unpacked」イベントで発表されたこの統合により、ユーザーはサイドボタンの長押しや「Hey, Plex」という独自のウェイクワードを用いて、端末のどこからでも瞬時にPerplexityのエージェントを呼び出せるようになる⁶¹。重要なのは、このエージェントが単なる検索アプリとして独立しているのではなく、Samsung Notes、カレンダー、リマインダー、ギャラリーといったGalaxyのネイティブアプリ群と深く連携し、アプリをまたいだマルチステップのタスクをシームレスにオーケストレーションできるようになる点である⁶¹。

さらに、2026年末から2027年にかけてのハードウェア市場における最大のトレンドである「AI搭載スマートグラス(ARグラス)」領域への進出も不可避のシナリオである⁶³。CES 2026でRayNeoやMeta-Boundsが示したように、超軽量なARグラスの技術的ブレイクスルーが起きている⁶³。スマートグラスは画面サイズの制約上、従来の検索エンジンのように長文のリンク一覧を読ませるのには全く適していない。「ユーザーのコンテキストを視覚・聴覚から理解し、端的な音声で最適な答えを返す、あるいは自律的にタスクを完了させる」Perplexityのようなアンサーエンジン/オーケストレーターが最も輝きを放つハードウェアこそがスマートグラスなのである⁶⁴。カメラを通じてユーザーの視界を共有し、リアルタイムで物理世界の情報を解析しながら、クラウド上の19のモデルを動員してタスクを処理する「アンビエント(環境溶け込み型)AI」の未来は目前に迫っている。

7.2. eコマース領域における「即時購入(Instant Buy)」と法的摩擦の激化

Perplexityの次なる巨大な収益の柱として市場から期待されているのが、コマース機能の拡張である。「Comet Enterprise」ブラウザや「Personal Computer」のエージェント機能を用いれば、ユーザーが「高品質で最も安く、人間工学に基づいたオフィスチェアを探して買って」と自然言語で指示するだけで、AIが自律的にウェブ全体をスクレイピングして最安値を見つけ、PayPal等のウォレットと連携して決済フォームの入力までを自動で完了させる「即時購入(Instant Buy)」のワークフローが完成する¹⁷。

しかし、この領域への性急な進出は、既存のプラットフォーマーやコンテンツホルダーとの間で苛烈な法的対立と摩擦を生み出している¹⁷。Amazonは、皮肉にもPerplexityの投資家の一つであるにもかかわらず、自社のeコマースサイトがAIエージェントによってクローリング(自動情報収集)され、Amazonが収益源としているサイト内の広告やUIをユーザーにバイパスされて直接決済されることを防ぐため、連邦裁判所を通じてPerplexityのCometブラウザによるアクセスをブロックする強硬措置を講じている¹⁷。

また、AIの回答を生成するための重要な情報源となっているRedditをはじめとするメディアプラットフォームからは、大規模なデータスクレイピングと著作権侵害を理由とした提訴を受けており、プラッ

トフォーム側は巨額のライセンス料の支払いを求めている¹⁷。Perplexityが「ユーザーのための自律的で中立なエージェント」という理想を追求し、ウェブ上のタスクを自動化すればするほど、従来のウェブトラフィック(PV)とそれに紐づく広告収入に依存してエコシステムを築いてきた既存のインターネット経済圏とのハレーションは強まる。この法的摩擦をどのようにクリアし、コンテンツプロバイダーやリテラーと「新たなトラフィックと利益分配のモデル」を構築できるかが、2027年に向けて同社の成長を左右する最大の経営課題となる。

7.3. エージェント市場の淘汰:「スピード」から「信頼性とガバナンス」への回帰

AIエージェントに対する市場の熱狂とは裏腹に、エンタープライズ領域における実態はより冷静である。調査会社Gartnerの予測によれば、現在企業がパイロット版として進めているAgentic AI(自律型AIエージェント)プロジェクトの40%以上が、2027年末までにキャンセルされる、あるいは実運用に至らず頓挫する見込みであると警告している⁶⁷。

その主要な理由は、予期せぬAPIコストの高騰、マルチエージェント環境をスケールさせる際の技術的複雑さ、そしてなにより「AIの行動がブラックボックスであり、企業が求める監査やコンプライアンス要件に耐えられない」というガバナンスとセキュリティ上のリスクにある⁶⁷。

2025年～2026年前半のトレンド	2026年後半～2027年のシフト
評価軸: AIモデルの推論能力と処理スピード	評価軸: 出力プロセスの検証可能性、ガバナンス、監査性 ⁶⁹
アーキテクチャ: 単一の万能モデル(汎用LLM)への依存	アーキテクチャ: 専門モデルのマルチエージェント・オーケストレーション ⁶⁹
セキュリティ: アクセス制御が甘いオープンソースの実験的導入	セキュリティ: サンドボックス化、エンドポイント保護(CrowdStrike等)との統合 ²²
導入形態: 部門ごとのサイロ化されたエージェント(PoC段階)	導入形態: A2Aプロトコル等を介した組織横断的な標準化インフラ ⁴⁶

2026年初頭までのAI開発競争の主眼は、ベンチマークスコアを高め「どれだけ速く、賢い回答を出せるか」という純粋な性能競争であった。しかし、2027年のエンタープライズ市場における勝負の分水嶺は、「どれだけその出力に至ったプロセスを人間に検証可能(Explainable)にし、企業のビジネスロジックに適合させ、完全な監査証跡(Audit trail)を残せるか」という信頼性の担保へと完全にシフトする⁶⁹。

Perplexityが「Personal Computer」や「Comet Enterprise」の設計において、キルスイッチの物理的・論理実装、SOC 2 Type IIへの準拠、CrowdStrikeのFalconプラットフォームとの連携、そしてModel Councilを用いた推論プロセスの透明化(モデル間の意見の不一致の可視化)といった、一見

すると「退屈だが極めて重要なエンタープライズ向け機能」に多大なエンジニアリングリソースを割いている理由はまさにここにある¹¹。初期の熱狂に乗って無秩序に作られたオープンソース・エージェント(OpenClaw等)がセキュリティ事故で自滅していく中²²、Perplexityは「安全なサンドボックス内で実行され、IT管理者が完全に制御可能なエージェント基盤」を提供することで、この「幻滅期(キャズム)」を無傷で乗り越え、来るべき自律型AI普及期において生き残る一握りのプラットフォーマーになるための強固な布石を打っているのである。

8. 結論: AI時代の「オペレーティングシステム」を再定義する戦い

Perplexityが2026年の「Ask」カンファレンスを通じて提示した一連のプロダクトと戦略の軌跡を俯瞰すると、同社がもはやGoogleの検索シェアを奪うための単なる「検索エンジン企業」ではなく、かつてのMicrosoftのWindowsやAppleのiOSが果たした役割を次世代のパラダイムで担う「オペレーティングシステム企業」へと変質していることが明白になる。

「Perplexity Computer」による19のフロンティアモデルの自律的オーケストレーションは、AIが単一の「巨大で賢い脳」から、適材適所でツールを使い分ける「高度に組織化されたデジタル労働者のチーム」へと進化したことを意味する。そして、月額200ドルで提供される「Personal Computer」は、そのクラウド上の巨大な組織力を、Mac miniという物理的なアンカーデバイスを通じて、現実世界のファイルシステムやビジネスワークフローに直接接続し、「Labor-as-a-Service(労働力としてのサービス)」として提供する野心的な試みである。

エンタープライズ市場におけるマッキンゼーやBCGのベンチマークを用いた圧倒的なROI(4週間で3.25年分の業務完了)の実証、Linux FoundationにおけるA2Aプロトコルの推進を通じたエコシステム標準化への関与、そしてCrowdStrike等との提携による堅牢なガバナンスとセキュリティインフラの構築は、すべて「人間がAIに実務の実行権限を全面的に委任する」という未来に対する社会的な信頼を築くための緻密な戦略である。

もちろん、データスクレイピングや即時購入機能を巡るAmazonやRedditとの法的な対立、Agentic Blabberingのような未知のサイバー攻撃の脅威、そして巨大化するインフラコストなど、同社が乗り越えるべき障壁は決して低くない。しかし、AI技術が「テキストや画像の生成(Generation)」から「現実のソフトウェア空間における行動の実行(Action)」へと歴史的なパラダイムシフトを果たす中で、特定のAIモデル開発者に依存せず、プラットフォーマーとして中立的な立場で「その時々最高のモデルをオーケストレーションする」というPerplexityのアーキテクチャ・アプローチは、極めて高いビジネス的合理性と生存確率を持っている。

2026年から2027年にかけて、私たちは「ソフトウェアが受動的にユーザーの入力を待つ」時代から、「デジタル労働者が24時間バックグラウンドでユーザーの目的達成のために働き続ける」時代への明確かつ不可逆的な転換点を経験することになる。その新しいデジタル経済圏の中心において、Perplexityは最も有力かつ不可欠な「次世代のインフラストラクチャ」としての確固たる地位を確立しつつある。

引用文献

1. マルチモデル統合型AI基盤「Perplexity Computer」を発表 - PR TIMES, 3月 14, 2026 にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000157647.html>
2. Perplexity's Personal Computer is a cloud-based AI agent running ..., 3月 14, 2026 にアクセス、
<https://9to5mac.com/2026/03/11/perplexitys-personal-computer-is-a-cloud-based-ai-agent-running-on-mac-mini/>
3. Perplexity turns your Mac mini into a 24/7 AI agent, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://thenextweb.com/news/perplexity-personal-computer-enterprise>
4. Perplexity Unveils Personal Computer, Expands Enterprise Tools ..., 3月 14, 2026にアクセス、
<https://nationaltoday.com/us/ca/san-francisco/news/2026/03/12/perplexity-unveils-personal-computer-expands-enterprise-tools/>
5. Perplexity Personal Computer' AI Agent Is Like Digital Proxy' Of Users: What's New?, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.ndtvprofit.com/technology/perplexity-personal-computer-ai-agent-is-like-digital-proxy-of-users-top-features-11204511>
6. Perplexity launches 'Computer,' orchestrating 19 AI models in one system, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/page/perplexity-launches-computer-o-M2JZ.ITBQqOyrZXCdouhZA>
7. Introducing Perplexity Computer, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-computer>
8. Perplexity Computer Orchestrates 19 AI Models to Execute Month-Long Workflows, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.trendingtopics.eu/perplexity-computer-orchestrates-19-ai-models-to-execute-month-long-workflows/>
9. Perplexity Computer launches with 19 AI models orchestrated as a single super agent, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://udit.co/blog/perplexity-computer-19-model-ai-super-agent-launch>
10. What advanced AI models are included in my subscription? | Perplexity Help Center, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/10354919-what-advanced-ai-models-are-included-in-my-subscription>
11. Perplexity Changelog, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/changelog/what-we-shipped---march-6-2026>
12. Perplexity aims for the enterprise with AI-enabled browser, tools - CIO Dive, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.ciodive.com/news/perplexity-enterprise-ai-browser-tools/814609/>
13. What is Model Council? | Perplexity Help Center, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13641704-what-is-model-council>
14. Introducing Model Council - Perplexity, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-model-council>

15. Important take aways from Perplexity analyst day : r/ArtificialIntelligence - Reddit, 3月 14, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ArtificialIntelligence/comments/1rrr40l/important_take_aways_from_perplexity_analyst_day/
16. How to use Computer Skills | Perplexity Help Center, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13914413-how-to-use-computer-skills>
17. Beyond Search: Perplexity's Ambitious Plan to Take Over Your Mac, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.eweek.com/news/perplexity-ai-agent-mac-personal-computer/>
18. Everything is Computer - Perplexity, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/everything-is-computer>
19. Why is Openclaw & the Mac mini/studio going viral right now, & how are people using it?, 3月 14, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ArtificialIntelligence/comments/1rjzz5b/why_is_openclaw_the_mac_ministudio_going_viral/
20. I Bought a Mac Mini to Try OpenClaw, the Most Hyped AI Tool of 2026, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://pages.thefountaininstitute.com/posts/i-bought-a-mac-mini-to-try-openclaw-the-most-hyped-ai-tool-of-2026>
21. OpenClaw Showed Me What the Future of Personal AI Assistants Looks Like - MacStories, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.macstories.net/stories/clawdbot-showed-me-what-the-future-of-personal-ai-assistants-looks-like/>
22. CISOs in a Pinch: A Security Analysis of OpenClaw | Trend Micro (US), 3月 14, 2026にアクセス、
https://www.trendmicro.com/en_us/research/26/c/cisos-in-a-pinch-a-security-analysis-openclaw.html
23. 3月 14, 2026にアクセス、
<https://openclaw.ai/#:~:text=The%20AI%20that%20actually%20does,chat%20app%20you%20already%20use.>
24. OpenClaw — Personal AI Assistant, 3月 14, 2026にアクセス、 <https://openclaw.ai/>
25. What Is OpenClaw? The Open-Source AI Agent That Actually Does Things | MindStudio, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.mindstudio.ai/blog/what-is-openclaw-ai-agent>
26. OpenClaw: The AI Agent Security Crisis Unfolding Right Now - Reco, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.reco.ai/blog/openclaw-the-ai-agent-security-crisis-unfolding-right-now>
27. Perplexity Computer: Unified Multi-Agent Autonomous AI Platform - Solid Timing, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://solidtiming.co/perplexity-computer-unified-ai-platform/5352/>
28. Perplexity Computer: The Good, The Bad, and The Ugly : r/ArtificialIntelligence - Reddit, 3月 14, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ArtificialIntelligence/comments/1rf9mji/perplexity_comp

- [uter_the_good_the_bad_and_the_ugly/](#)
29. Perplexity's Personal Computer lets AI agents access your Mac mini's files, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://appleinsider.com/articles/26/03/11/perplexitys-personal-computer-lets-ai-agents-access-your-mac-minis-files>
 30. Perplexity Just Built an AI That Runs 19 Models at Once. And Yeah, It's a Big Deal., 3月 14, 2026にアクセス、
<https://smallest.ai/blog/perplexity-just-built-an-ai-that-runs-19-models-at-once.-and-yeah-it-s-a-big-deal>
 31. Perplexity's Computer Completed 3.25 Years of Work in 4 Weeks, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.pymnts.com/news/artificial-intelligence/2026/perplexity-computer-enterprise-completed-3-years-work-4-weeks/>
 32. 'AI is the Computer': Perplexity reveals Personal Computer, a cloud-based AI agent running on your Mac | TechRadar, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.techradar.com/pro/ai-is-the-computer-perplexity-reveals-personal-computer-a-cloud-based-ai-agent-running-on-your-mac>
 33. Perplexity just turned a Mac mini into a 24/7 AI employee that never sleeps, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.indiatoday.in/technology/news/story/perplexity-just-turned-a-mac-mini-into-a-247-ai-employee-that-never-sleeps-2880767-2026-03-12>
 34. Perplexity's Personal Computer is a Mac mini running an AI OS - Macworld, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.macworld.com/article/3086893/perplexitys-personal-computer-is-a-mac-mini-running-an-ai-os.html>
 35. Perplexity unveils 'Personal Computer', an AI agent that manages your tasks and files, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://indianexpress.com/article/technology/artificial-intelligence/perplexity-personal-computer-ai-agent-10578145/>
 36. Perplexity Pricing in 2026 for Individuals, Orgs & Developers - Finout, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.finout.io/blog/perplexity-pricing-in-2026>
 37. Introducing Perplexity Max, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-max>
 38. Perplexity brings always-on AI systems for individual and enterprise use, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://yourstory.com/ai-story/perplexity-personal-computer-computer-for-enterprise-ai-systems>
 39. Comet for Enterprise | Perplexity Help Center, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/12781449-comet-for-enterprise>
 40. How AI Boosts Productivity: Insights from Harvard Business School and BCG - UMU Blog, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://blog.umu.com/2025/01/10/How-AI-Boosts-Productivity-Insights-from-Harvard-Business-School-and-BCG/>
 41. Work 25% faster, 40% better: Harvard study finds consulting giant BCG's staff using ChatGPT outperform on every measure – and underachievers get biggest

- boost | Mi3, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.mi-3.com.au/20-09-2023/harvard-business-school-study-bcg-finds-knowledge-workers-using-chat-gpt-outperform>
42. CrowdStrike and Perplexity Partner to Deliver Enhanced Security for Comet Enterprise, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.crowdstrike.com/en-us/press-releases/crowdstrike-perplexity-extended-enterprise-grade-security-to-comet-enterprise/>
 43. Perplexity Comet Browser: Key Features, Reviews & Security Tips - Seraphic, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://seraphicsecurity.com/learn/ai-browser/perplexity-comet-browser-key-features-reviews-and-security-tips/>
 44. Researchers Trick Perplexity's Comet AI Browser Into Phishing Scam in Under Four Minutes, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://thehackernews.com/2026/03/researchers-trick-perplexitys-comet-ai.html>
 45. CrowdStrike and Perplexity Partner to Deliver Enhanced Security for Comet Enterprise, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.businesswire.com/news/home/20260311069211/en/CrowdStrike-and-Perplexity-Partner-to-Deliver-Enhanced-Security-for-Comet-Enterprise>
 46. Linux Foundation Welcomes the AGNTCY Project to Standardize Open Multi-Agent System Infrastructure and Break Down AI Agent Silos, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.linuxfoundation.org/press/linux-foundation-welcomes-the-agntcy-project-to-standardize-open-multi-agent-system-infrastructure-and-break-down-ai-agent-silos>
 47. OpenAgents Announces Support for A2A Protocol—Can This Really Solve the Long-standing Problem of “AI Agent Fragmentation”? : r/GrowthHacking - Reddit, 3月 14, 2026にアクセス、
https://www.reddit.com/r/GrowthHacking/comments/1qhtz0a/openagents_announces_support_for_a2a_protocolcan/
 48. Google's Agent2Agent project moves to Linux Foundation - InfoWorld, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.infoworld.com/article/4011301/googles-agent2agent-project-moves-to-linux-foundation.html>
 49. Linux Foundation Launches the Agent2Agent Protocol Project to Enable Secure, Intelligent Communication Between AI Agents, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.linuxfoundation.org/press/linux-foundation-launches-the-agent2agent-protocol-project-to-enable-secure-intelligent-communication-between-ai-agents>
 50. Google Cloud donates A2A to Linux Foundation, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://developers.googleblog.com/en/google-cloud-donates-a2a-to-linux-foundation/>
 51. Choosing Your AI Orchestration Stack for 2026, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://thenewstack.io/choosing-your-ai-orchestration-stack-for-2026/>
 52. Linux Foundation Welcomes Agentgateway Project to Accelerate AI Agent Adoption While Maintaining Security, Observability and Governance, 3月 14, 2026

- にアクセス、
<https://www.linuxfoundation.org/press/linux-foundation-welcomes-agentgateway-project-to-accelerate-ai-agent-adoption-while-maintaining-security-observability-and-governance>
53. Perplexity revenue, valuation & funding | Sacra, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://sacra.com/c/perplexity/>
 54. How Perplexity AI Reached \$9B Valuation in 18 Months? - AI Funding Tracker, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://aifundingtracker.com/perplexity-ai-valuation-growth-strategy/>
 55. Perplexity Enterprise Pricing - Get Started Today, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/enterprise/pricing>
 56. 60 Perplexity AI Statistics 2026 [Most Important Numbers] - SeoProfy, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://seoprofy.com/blog/perplexity-ai-statistics/>
 57. Perplexity Revenue and Usage Statistics (2026) - Business of Apps, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.businessofapps.com/data/perplexity-ai-statistics/>
 58. Startup News: Insider Growth Secrets and Revenue Insights from Perplexity AI in 2026 - Female Entrepreneurs, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://blog.mean.ceo/startup-news-insider-growth-secrets-revenue-insights-perplexity-ai-2026/>
 59. CoreWeave Announces Agreement to Power Perplexity's AI Inference Workloads, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.businesswire.com/news/home/20260304248320/en/CoreWeave-Announces-Agreement-to-Power-Perplexitys-AI-Inference-Workloads>
 60. Getty Images and Perplexity strike multi-year image partnership, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://newsroom.gettyimages.com/en/getty-images/getty-images-and-perplexity-strike-multi-year-image-partnership>
 61. Perplexity AI lands on Samsung's next Galaxy lineup - Help Net Security, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.helpnetsecurity.com/2026/02/23/samsung-galaxy-perplexity-ai-agent-expansion/>
 62. Turns Out Perplexity Might Be the Sleeper Feature on Samsung's Galaxy S26 - CNET, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.cnet.com/tech/mobile/turns-out-perplexity-might-be-the-sleeper-feature-on-samsungs-galaxy-s26/>
 63. CES 2026 XR and Smart Glass Announcements Recap - Counterpoint, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://counterpointresearch.com/en/insights/ces-2026-xr-and-smart-glass-announcements-recap>
 64. Apple to launch AI smart glasses in 2026 - Perplexity, 3月 14, 2026にアクセス、
https://www.perplexity.ai/page/apple-to-launch-ai-smart-glass-rBww_z.YSBCynZzwYJU2g
 65. Samsung smart glasses gain Quick Pair support - Perplexity, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/page/samsung-advances-development-of-ek.egXqmRK>

[OMzhFYtihXQA](#)

66. Comet Browser: a Personal AI Assistant - Perplexity, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/comet/>
67. Unlocking exponential value with AI agent orchestration - Deloitte, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.deloitte.com/us/en/insights/industry/technology/technology-media-and-telecom-predictions/2026/ai-agent-orchestration.html>
68. Gartner Predicts Over 40% of Agentic AI Projects Will Be Canceled by End of 2027, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.gartner.com/en/newsroom/press-releases/2025-06-25-gartner-predicts-over-40-percent-of-agentic-ai-projects-will-be-canceled-by-end-of-2027>
69. Predictions: The Next Decade of Agentic AI Evolution - Synclovis Systems, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.synclovis.com/articles/predictions-the-next-decade-of-agentic-ai-evolution/>
70. AI and Enterprise Technology Predictions from Industry Experts for 2026 - Solutions Review, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://solutionsreview.com/ai-and-enterprise-technology-predictions-from-industry-experts-for-2026/>
71. The Future of AI Agents: 6 Key Trends 2025-2027 - Technova Partners, 3月 14, 2026にアクセス、
<https://www.technovapartners.com/en/insights/future-ai-agents-trends-2025-2027>